

令和6年度 学校経営方針



R6. 4. 1



苫小牧市立勇払中学校

I 学校経営の基本的な考え方

1 学校経営方針策定にあたっておさえておくべき事項

(1) 令和の日本型教育における学校の役割

- ① ICT環境や先端技術の活用等により、**学習の基盤となる資質・能力**（※1）を育成すること。
（※1） **「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」**
- ② 多様な生徒一人一人の興味・関心等に応じた、**主体的・対話的で深い学び**を実現すること。
- ③ 生徒同士の学び合い、他者と協働した探究的・体験的な学びを通して、集団や社会の一員の中で自己肯定感や自己効力感、所属感を高め、**「人」としての良さ**を発揮できる教育活動を推進すること。
- ④ 教職員が学校教育を取り巻く環境の変化を受け止め、これからの人材の育成に対応できる資質能力（※2）の向上に主体的に取り組むこと。→**主体的・対話的で深い研修**
（※2） **授業改善（チョーク&トークからの脱却）、ICT活用指導力、ファシリテーション能力**

1 学校経営方針策定にあたっておさえておくべき事項

(2) 勇払地区の地域性

- ① 勇払地区では人口減少が顕著であり、**学校の在り方**が議論されている。
- ② 将来の学校の姿を見据え、**エリアによる一貫教育**の推進に取り組まなければならない。
- ③ **持続可能な教育活動**にすべく、学校運営協議会と連携し、教育課程を改善する必要がある。
- ④ **多様化**する社会の中、学校教育が学校のみで完結させる時代ではなくなっている。地域等外部の**教育資源の活用**が不可欠である。(学校と地域がwin-winの関係に)

【今年度の児童生徒数】

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
児童 生徒数	10 (1)	17 (1)	3 (0)	10 (1)	9 (2)	11 (3)	17 (1)	9 (2)	14 (1)

【今後の全校生徒数の推移】

年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
全校 生徒数	40 (4)	34 (6)	35 (6)	29 (6)	22 (3)	30 (2)	30 (2)	? (?)	? (?)

数値はR6.1.21現在
()は特支(内数)

1 学校経営方針策定にあたっておさえておくべき事項

(3) 勇払中の校内組織体制

- 校長1、教頭1、教諭10、養護教諭1、事務職員1、事務補1、公務補1
 - ・ 通常学級 3 学級 【教員定数 7 名】
 - ・ 特別支援学級 2 学級（知的、自閉・情緒） 【教員定数 3 名】
 - ・ 校務分掌（教務部6、生徒指導部5、総務部1、管理部3）
 - ・ 学年（1 学年2、2 学年3、3 学年2） ※特支は各学年に所属、養教は3学年所属
- 加配及び会計年度任用職員 ※3/14現在
 - ・ 免許外教科担任解消（技術：非常勤講師、美術：専科教員（兼務））
 - ・ 体育授業実践スペシャリスト事業（体育：兼務）…週 1 回勤務（兼務）
 - ・ 特別支援学級介添員…1日6時間勤務、課業日に勤務
 - ・ 特別支援教育支援員…1日4時間30分勤務、180日
- 関係機関担当…校務及び学年分掌に応じて割り振り
- 部活動…市教委の地域移行ロードマップ及び各競技団体の動向を注視しながら依頼する
 - ※R6:バドミントン部、女子バスケ部、文芸部を設置する

1 学校経営方針策定にあたっておさえておくべき事項

(4) 働き方改革

① 教職員定数の関係で、教職員個々の業務負担が慢性的に大きいことから、働き方改革が急務であり、これまでの**習慣を改める**必要がある。

- 具体例) ・ **複数担任制** (担任・副担任の区別をなくす。担任業務の**ワークシェア**)
- ・ 部活動の**複数顧問制** (放課後業務の**ワークシェア**)
 - ・ 諸会議、配付物の**ペーパーレス化** (デジタル化 = **学校DX**)

② コロナ禍によって効率化、省力化、重点化した教育活動について、教育効果に影響がないことからコロナ前の内容に無理に戻す必要はない。(**ニューノーマル**であるとの認識で事に当たる)

(5) 学校DX

ICT活用は必須。教師間格差、学校間格差等、生徒が不利益を被ることがあってはならない。

- ・ 校務用PCの更新→授業での活用、授業用データの作成
- ・ 校務支援システムの機能拡充→C4thによる生徒個人のデータ管理を徹底
- ・ AI型ドリルの継続導入→eライブラリ、MEXCBTの活用 (個別最適な学び)

2 令和5年度学校評価（保護者）から

番号	設 問	R05	R04	R03
1	学校は、あなたに、教育方針や教育活動について、わかりやすく伝えていますか。	B	A	A
2	あなたのお子さんは、明るく元気に学校生活を送っていますか。	B	B	B
3	学校は、あなたのお子さんにあった学習指導を行っていますか。	C	B	B
4	あなたのお子さんは、これまでの基礎的・基本的な学習内容を身につけていますか。	C	C	C
5	あなたのお子さんは、学校で習ったことを復習するなど、自ら進んで家庭学習に取り組んでいますか。	C	B	C
6	学校は、あなたのお子さんの道徳性を養い、心の成長を図っていますか。	C	A	B
7	学校は、一人一台端末（タブレット）の活用などにより、情報活用能力の育成を図っていますか。	B	B	C
8	あなたのお子さんは、学校行事に意欲的に取り組んでいますか。	B	B	B
9	学校は、あなたのお子さんに、将来の進路や職業観について、適切な指導を行っていますか。	B	A	B
10	学校は、行事や総合的な学習の時間などを通して、体験的な学習を進めていますか。	B	A	B
11	学校は、学級や生徒会の活動を積極的に指導していますか。	B	A	B
12	学校は、あなたのお子さんの話を聞いて、適切にかかわりをもっていますか。	C	A	B
13	あなたのお子さんに、本に親しむ態度が身についてきたと思いますか？	C	C	C
14	あなたは、PTA活動に積極的に参加していますか？	D	D	D
15	学校は、あなたのお子さんに、いじめをなくし命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てていますか。	C	A	B
16	あなたのお子さんは、家庭学習に（1年生は80分・2年生は90分・3年生は100分）以上取り組んでいますか。	C	C	C
17	あなたは、学校からのコメント欄に記入するなど、お子さんの学習を支えるよう心がけていますか。	B	B	B
18	学校は、あなたのお子さんの体力を高めるための工夫をしていますか。	C	C	B
19	学校は、あなたのお子さんに、健康で安全に過ごすための知識を身につけさせていますか。	C	B	B
20	勇払幼・小・中の連携・一環教育が促進されていますか。	C	C	B
21	地域の人的・物的教育資源を活用した、特色ある教育活動が展開されていますか。	B	B	B
22	コミュニティー・スクールは、勇払小・中の運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組んでいますか。	C	B	C

2 令和5年度学校評価（生徒）から

番号	設 問	R05	R04	R03
1	先生がたは、あなたに、学校でのさまざまな活動の目的をきちんと伝えていますか？	B	B	A
2	学校の生活は、楽しいですか？	B	C	B
3	あなたは、これまでの基礎的・基本的な学習内容を身につけていますか？	C	C	B
4	先生がたは、あなたにあった教え方で、わかりやすく教えてくれていますか？	B	A	B
5	授業などで、クラスの仲間の考えを聞いたり、自分の考えをまとめて発表したりすることがありますか？	B	B	A
6	学校では、学習や生活のことで、先生がたに質問したり、相談したりする機会はありますか？	C	B	B
7	あなたは、復習や予習をするなど、家庭学習に（①80・②90・③100）分以上取り組んでいますか。	C	D	D
8	学校では、お互いに思いやり、励まし合い、高め合う機会がありますか？	B	B	B
9	学校では、いじめをなくし命の大切さや社会のルールについて学習していますか？	B	A	A
10	あなたは、道徳の授業などで、人の生き方や命の大切さなどの豊かな心のあり方について学習していますか？	B	B	A
11	あなたは、将来の職業や進路について考えたり、学校で勉強することの大切さを学んでいますか？	B	B	B
12	あなたは、学級活動や委員会活動で、自分の役割に責任をもち、自主的に行動していますか？	B	B	B
13	学校では、コンピュータなど情報機器を有効に活用していますか？	A	B	A
14	学校の授業では、さまざまなことを体験して考えを深める機会がありますか。	B	B	B
15	学校の授業では、地域（※勇払の人に加え、企業や団体も含む）の人に教えてもらったり、地域の人と一緒に活動したりする機会がありますか。	B	B	B
16	あなたは、朝読書を通して、読書に親しむ態度が身につけてきましたか？	B	B	B
17	あなたは、学校行事に積極的に参加していますか？	B	B	B
18	あなたは、今年の自分と比べて、体力が向上したという実感はありますか？	C	C	B
19	あなたは、健康で安全に過ごすための知識を身につけていますか？	B	B	A

3 学校課題

(1) 学力に関する自己評価と実際の成績との間にギャップがある

- ・小学校段階でつまづいている生徒が一定数いる
- ・中学校入学後もつまづきが解消されず、学習の積み上げが不十分である
- ・学習意欲の停滞が各学級の学習環境に影響を及ぼしている
- ・現状に対する危機感が低い

(2) 年齢相応の社会性が十分とは言えない

- ・小集団にも関わらず人間関係でもめることが多く、心理的安全性が高いとは言えない
- ・全体での意思表示、自己表現に弱さがある（スピーチ、校歌、合唱、あいさつ）

(3) 不登校生徒の出現率が高い（R5:30日以上欠席12名=29%）

- ・小学校から継続のケースが多く、原因が複合的（心因性、無気力、養育環境）
- ・校内外の教育支援センター、フリースクール等、不登校対策が多様化している

(4) 義務教育学校への移行を見据えた地域連携、小中連携の深化が求められる

- ・小・中学校の教育課程の整理・統合、学習・生徒指導に係る情報共有→エリア会議
- ・保護者、地域の期待に寄り添った持続可能なCSづくり→学校運営協議会
(理念の共有、行動連携)

Ⅱ 学校経営方針

1 学校教育目標

生徒一人一人の個性に応じた
「生きる力」の育成をめざして

- 自ら進んで学習に取り組む生徒の育成
- 自他の生命・人格を尊重できる生徒の育成
- 社会の一員として行動できる生徒の育成

2 育成を目指す資質・能力（学校教育目標との関連）

■ 自ら進んで学習に取り組む生徒の育成

学んだことを活用し、実践する力

- ・ 授業や家庭学習に意欲的に取り組み、主体的に学ぶ
- ・ 基本的な生活習慣を身に付け、けじめある生活を送ろうとする

2 育成を目指す資質・能力（学校教育目標との関連）

■ 自他の生命・人格を尊重できる生徒の育成

他者とのかかわりの中で共感し、自律する力

- ・ 思いやり・寛容・感謝の心を持ち、自他の人権や生命を尊重する
- ・ 心身ともに健康で安全な生活を営もうとする

2 育成を目指す資質・能力（学校教育目標との関連）

■ 社会の一員として行動できる生徒の育成

社会や世界の一員としてよりよい生き方を考え、協働する力

- ・ 自らの在り方や生き方を考え、より良い人生を送ろうとする
- ・ 法やきまりを守り、より良い人間関係をつくる

3 目指す生徒像（勇払中学校区が目指す15歳の姿）

勇払の**伝統**を受け継ぎ、さらに**前進**する生徒



- ・ 苫小牧発祥の地である勇払で生きる者として、ふるさとに関する地理的・歴史的背景に対する理解を深める。
- ・ 過去から受け継がれてきた**伝統**を次の世代に**つなぐ**。
(ローカルの視点)

- ・ 広い視野で物事を考え、地域や社会の課題解決に向けて**貢献**する。
- ・ 一人の自立した大人に向かって**挑戦**する。
(グローバルの視点)

生徒の個性（長所）に目を向け伸ばす教師

- 学者…授業を磨くために**学び続ける**
- 役者…適切な距離感で**見守り支える**
- 易者…メンターとして**動機付けができる**
- 賢者…常識的な言動で**正しい方向に導く**
- 医者…深い生徒理解で**丁寧に関わる**

生徒一人一人を**主語**にする学校

- 可能性を信じる
- 自主性・主体性・社会性を育てる
- 地域の宝として大切にす

具現化のためのキーワード：**個にフォーカスする**

個の成長（伸長）を意識した教育指導

→エビデンスを重視しつつ個のレベルまで一歩踏み込んで考える

6 令和6年度の重点（学校課題を踏まえて）

- 授業改善（学びの変革、充実）
- 自主性・主体性・社会性の向上
- 不登校対策（学びの多様化、保障）
- 小中一貫教育

キーワード（合言葉）：**個にフォーカスする**

7 経営活動の重点

(1) 教育課程…学習指導要領の内容を確実に生徒に届ける

- ① 育成を目指す資質・能力を見据えた教育活動の計画、推進
- ② 生徒の社会的・職業的自立を促すキャリア教育、ふるさと教育、ESDの推進（学びの充実）
- ③ 平常時、非常変災時のいずれにも対応できる体制の整備（学びの保障）
- ④ 検証改善サイクルの実質化

（視点：生徒の実態把握・明確な目的・教育効果の想定・持続可能な取組・無理のない計画）

(2) 組織運営…同僚性を基盤とした協働体制を構築する

- ① 根拠（エビデンス）に基づく機動的な組織運営（迷ったら目的に立ち返る）
- ② 報告・連絡・相談の徹底（コミュニケーション不足による不具合・不祥事の回避）
- ③ 分掌・学年の枠を越えた協働（業務分担は行うが、状況に応じて支え合う）
- ④ 学校DXの推進（データによる資料や情報の共有、自作デジタル教材の作成・蓄積・共有）
- ⑤ 専門性と同僚性を高める環境づくり（研修内容の焦点化と心理的安全性の向上）
- ⑥ 服務規律の保持（コンプライアンス意識の向上）
- ⑦ 学校教育力向上エリア会議における小学校（各部会）との連携

7 経営活動の重点

(3) 学年（学級）経営…生徒にとって安心できる居場所をつくる

- ① 生徒の個性が尊重され、学びあい、高め合い、支え合いを促す環境づくり
- ② 基本的な生活習慣の確立（時、場、分をわきまえる・時間を守る・自分から挨拶する）
- ③ 生徒理解支援ツール「ほっと」による生徒個々の実態把握及び学年（学級）経営の検証
- ④ 学年スタッフの協働

(4) 研修活動…学ばせるプロとしての資質向上を図る

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現（授業改善）
 - 1)学習者および参観者のいずれもが、学習内容や活動の意図を理解できる授業づくり
 - 2)ICTの効果的な活用（情報活用能力の向上、学習内容の理解の促進）
 - 3)日常実践に結び付く研修テーマの設定（ICT活用を前提として）
- ② 生徒及び保護者による授業評価の実施と検証（さらなる授業改善に役立てる）
- ③ 多様な課題への理解促進（例：LGBTQ、アフィリキシー、AED、メンタルヘルス、ヤングケアラー 等）
- ④ 校外研修への参加奨励、研修内容の還流、研修履歴の記録（教員個々の資質向上）

7 経営活動の重点

(5) 教育環境の整備…生徒の学びの質的向上につながる環境を整える

- ① 学校DXを意識したICT環境の整備（デジタル教材・ICT関連機器等）
- ② 学校図書館や空き教室等の有効活用（読書活動、特別支援、校内教育支援センター）
- ③ ポスター等の掲示場所、掲示方法の工夫
- ④ 言語環境の整備（正しい、適切な言動）

(6) 家庭・地域との連携…三者の信頼関係に基づく地域とともにある学校づくりを推進する

- ① 学校運営協議会における、学校経営方針及び地域の思いの共有、地学協働活動の推進
- ② 地域人材の積極的な活用
- ③ 生徒の地域ボランティア活動（地域行事）への参加
- ④ 家庭学習、基本的な生活習慣の確立及び、健康安全に関する取組に関する家庭への啓発
- ⑤ 授業（行事）参観、懇談会の効果的な活用（教育活動に対する理解の促進、個別対応の充実）
- ⑥ 義務教育学校への移行を見据えた**勇払小学校との連携（一貫教育）**の推進

7 経営活動の重点

(7) 危機管理…想定外を生まない体制を構築する

- ① 胆振防災教育デーを要とした防災教育の推進（**自助・共助・防災意識**）
- ② 的確かつ迅速な初期対応の徹底（災害時・生徒事故）
- ③ 命に係わる重大事故防止（いじめ・不登校・アナフィラキシー等）
- ④ 施設設備の定期的な安全点検（危険箇所の把握、事故の未然防止、修繕依頼、防犯対策）
- ⑤ 危機管理マニュアル、防災マニュアルの定期的な確認による非常時への備え

(8) 働き方改革…ワークライフバランスを考慮した働き方への意識・行動の変革を促す

- ① 業務内容の効率化（勤務時間内で完了できる計画と実践、**DX**、**CBT**の導入）
- ② チェックリスト、見直しの観点例を活用した働き方改革の進展（**組織、個の改革**）
- ③ 定時退勤日の着実な実施（会議日とリンク、計画性を持った働き方、実効性の向上）
- ④ 部活動の地域移行に向けた校内体制の整理（学校からの分離を目指す）

8 教育指導の重点

(1) 学習指導…主体性を育み、学ぶ意欲を高める「分かる授業」を展開する

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた**授業改善**

1) **共通取組事項** ⇒ 指導と評価の一体化

- ・ 焦点化… 1 単位時間（授業）の目標を明確にし、学習活動や学習評価を行う
- ・ イメージ化… 「何ができればよいか」のゴールイメージ明確にし、生徒と共有する
- ・ 視覚化… 授業の流れがわかる板書の工夫（課題・過程・まとめ・振り返り）

2) **共通取組場面**（見通す・決定する・協働する・振り返る）の設定

⇒ 個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実

② **ICT**の効果的、継続的な活用 ⇒ 学習方法の多様化、時間短縮（思考場面の時間確保）

1) 学習内容の理解・定着の促進

2) 復習や家庭学習でのAI型ドリルの活用

3) 板書の代替（学習の流れの可視化）

4) テストのCBT化（全国学調、チャレンジテスト）

③ **基礎学力**の向上（各種調査、レディネステストによる弱点の把握、つまづきへの対応）

④ 登校できない生徒への**学びの保障**（オンライン、オフラインを問わず）

8 教育指導の重点

(2) 生徒指導…信頼関係を基盤に生徒に寄り添いながら自己指導能力を育成し、自立と自律を促す

① 生徒指導の実践上の視点を踏まえた支援

- 1) **自己存在感の感受**…大切にされている、かけがえのない存在であることを実感させる
- 2) **共感的人間関係の育成**…認めあい、励ましあい、支えあい、高めあう集団づくり
- 3) **自己決定の場の提供**…自分の考えを持ち、意思表示できる
- 4) **安心・安全な風土の醸成**…**心理的安全性**、**人権意識**の向上、適切な**言語環境**

② 生徒指導上の諸課題に応じた適切な指導

- 1) **発達支持的生徒指導**…日常の関わり（**自己理解**を深め、**自己肯定感**、**自己有用感**を高める）
- 2) **課題予防的生徒指導**…事故（いじめ、不登校、自殺、薬物乱用、非行、ネットトラブル）防止
- 3) **困難課題対応的生徒指導**…迅速な初期対応、秩序の回復、再発防止の取組、関係機関との連携

③ 基本的な生活習慣（あいさつする、時間を意識する、法やきまり・約束を守る）の徹底

④ 生徒理解の徹底（日常観察、教育相談、家庭と環境、アンケート、ほっと）と情報共有

⑤ 共感的理解にもとづく教育相談の充実（カウンセリングマインドと人権意識をもって）

⑥ 不登校対策における教育支援センター等との連携、及び校内教育支援センターの活用

（あおば学級・トピリカ学級・フリースクール）

8 教育指導の重点

(3) 道徳教育…自己の生き方を考え、主体的・自律的な判断の下に行動できる道徳的心情を育む

- ① 各教科・領域と関連付けた全体計画に基づく「特別の教科 道徳」の授業の推進
 - 1)全教員による、「考え、議論（output）する授業」の実践と公開
 - 2)道徳的価値（内容項目）の理解
 - 3)発問や板書等、多面的・多角的な思考を促す工夫
 - 4)生徒の実態（学校課題）に応じた重点項目の設定…**人・命・夢**に関連する内容
- ② ゲストティーチャー等の校外の人材活用（**多様な人、多様な価値観**に触れる）
- ③ 体験活動、地域行事（ボランティア等）への参加による**共助**の意識の向上

(4) 総合的な学習の時間…教科等横断的、探究的な学習を通して問題発見・解決能力を育む

- ① ふるさと学習「郷土に生きる」による地域のルーツへの理解（**ローカル**）※千人隊踊り、藍
- ② 実社会で起きていることへの理解及び社会活動への参画意識の向上（**グローバル**）※SDGs
- ③ 既習内容との関連が図れる活動の工夫（学習で得た知識を活用する = **情報活用能力**）
- ④ 他者との協働による調査、思考、まとめ、発表までの過程の学習活動への位置付け
- ⑤ 地域教材の活用（**本物**と出会い、触れる）…関係機関、小学校、学校運営協議会との連携

8 教育指導の重点

(5) 特別活動…**集団の一員として、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組む態度を育む**

- ① **目的が明確で生徒の発想を重視**した学級活動、学校行事、生徒会活動の企画、運営
- ② **自己指導能力、自治能力**の向上につながる取組の推進（**合意形成、意思決定の場面設定**）
- ③ **縦割り活動（異年齢間交流）の推進**による学校生活の諸問題の解決
- ④ 地域の特色を生かした体験活動による地域や集団への**所属感、連帯感**の強化

(6) キャリア教育…**社会的・職業的自立に向けキャリア発達を促す**

- ① 自己の能力や適性に対する理解及び発達段階に応じた進路指導（進路適性検査、進路相談）
- ② 将来の姿のイメージ化につながる調査活動（職業調べ、上級学校調べ）
- ③ 体験活動による職業観、勤労観の形成（職場体験、専門学校訪問、高校体験入学）
- ④ 進路学習の記録の蓄積（キャリアパスポートの活用）
- ⑤ 進路選択のための情報収集及び提供（三者懇談、進路説明会）
- ⑥ 適切な進路指導（自己理解と自己決定を促す）と正確な進路事務の遂行（進路業務）

8 教育指導の重点

(7) 健康安全指導…生命を尊重し、心身ともに健康で安全な生活を営むよう指導・助言する

- ① 運動に親しみ、体力向上を図る機会の確保（学習指導との関連）
 - 1)新体力テストの調査結果の効果的活用（健康の維持増進との関連）
 - 2)保健体育の授業改善（運動時間の確保とICT活用による動き方の習得との両立）
- ② 日常生活における健康や安全に関する意識と実践力の向上（生徒指導との関連）
交通安全（登下校、自転車）、防犯（通学路）、防災（火災・地震・津波）訓練
食育（栄養）、食物アレルギー（アナフィラキシー）、薬物乱用防止（オーバードーズ等）
けが（事故防止）・疾病予防（健康調査、感染症対策等）、性（性感染症、避妊、性犯罪）
メンタルヘルス（心の健康、SOSの出し方）
- ③ 養護教諭を核とした健康相談（保健室の活用）
- ④ 防災体制、事故防止、健康増進に関する情報発信（家庭への啓発、非常時の対応）
- ⑤ 専門性を有する外部講師の活用

8 教育指導の重点

(8) 特別支援教育…適切なアセスメントにより、個々のニーズに合った支援を行う

- ① 個別の支援計画、個別の指導計画に基づいた学習指導の充実
 - 1) 個の状態像（障がいの種別・程度、思考・行動特性）に応じた教育課程の編成、実施
 - 2) **教科指導に自立活動を組み入れた授業**の推進
 - 3) 交流授業及び共同授業の効果的な設定
 - 4) ICTの効果的な活用
- ② 特別支援COによる学びの支援委員会の機能化
 - 1) 支援（指導）状況及び方向性の確認
 - 2) 特別支援教育をテーマにした研修の推進
 - 3) **保護者との共通理解による支援の円滑化**（各学期開始前の三者懇談）
- ③ 生徒の進路を見据えた通常学級と特別支援学級間の教科担任の一部乗り入れ（検討）
- ④ エリア部会（特別支援教育部会）による小学校との交流（円滑な引継ぎ）
- ⑤ 関係機関（あかり、市福祉部局、医療機関、胆振教育局、パートナーティーチャー）との連携

9 各種調査（エビデンス）と評価・検証

時期	教務部所管	生徒指導部所管	総務部所管	その他の所管
4月	全国学調・市統一テスト ほっかいどうチャレンジテスト①			
5月		生徒意識調査①		
6月	全国体調(新体力テスト)	いじめ調査①		
7月	よりよい勇払中① ほっかいどうチャレンジテスト②	心と体のチェックリスト①	学校評価①	
8月				
9月		ほっと①		
10月	校内授業研	生徒意識調査②		
11月		いじめ調査②		
12月	よりよい勇払中② ほっかいどうチャレンジテスト③	心と体のチェックリスト②	学校評価②	
1月	レディネステスト			学校関係者評価(CS)
2月	レディネステスト	ほっと②		
3月		心と体のチェックリスト③		

※赤字：文科省所管、青字：道教委及び市教委所管、黒字：本校独自



苫小牧市立

勇弘中学校